



わっと! みゅーじあむ

中央図書館



青垣いきものふれあいの里



春日歴史民俗資料館



植野記念美術館



丹波竜化石工房



水と回廊水流れフィールドミュージアム



たんばりゅうか せきこうぼう 丹波竜化石工房

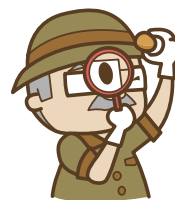
BIGs

～丹波竜と竜脚類の進化～



丹波竜化石工房では2024年夏季特別展として丹波竜を主役とした企画展を開催しました。丹波竜が属する「竜脚類」と呼ばれるグループの恐竜たちは、首と尻尾が長いのが特徴的な恐竜たちです。地球史上最大の陸上動物と言われており、最も大きいもので全長35m以上、体重80t～100tもあったとされます。本展では丹波竜がどのように見つかり、どんな特徴から新属・新種だと分かったのかを紹介しながら、竜脚類という「大きなものたち（BIGs）」の起源や巨大化の秘密に迫りました。

また、丹波竜化石工房はリニューアルのため令和7年の7月ごろまで休館しています。リニューアル後は施設がさらに広がり、たくさん展示物も増えるのでぜひ楽しみにしていて下さい！



れきし みんぞく しりょうかん 歴史民俗資料館

春日歴史民俗資料館

かき 夏季ミニ企画展

「教科書がものがたる戦争」



春日歴史民俗資料館では太平洋戦争終戦の時期にあわせ、夏季ミニ企画展「教科書がものがたる戦争」を開催しました。企画展では、明治時代から昭和時代にかけて、実際に丹波市で使われていた教科書を展示し、こどもたちが「戦争」についてどのように学んでいたかを紹介しました。

近代の日本は、太平洋戦争だけでなく、国内では戊辰戦争や西南戦争、海外では日清・日露戦争、第一次世界大戦など、多くの戦争を経験しています。戦争が今より身近だった時代、国語や修身（現在の道徳）の教科書では戦場での兵士の活躍や美談が書かれ、図画（現在の図画工作）の教科書では兵隊や戦車の絵が掲載されていました。

企画展の期間中、展示した教科書の一部を拡大印刷して、展示室と市内の各図書館に設置しました。展示している資料を手にとって見ることで、当時のこどもたちの学校での様子をイメージしやすくなったのではないのでしょうか。

青垣いきもの ふれあいの里

絶滅種第1号は？



参考文献

- ・雑学丹波「氷上回廊」 開田齊 著
- ・神戸新聞 2006 年 (平成 18 年) 9 月 10 日号
- ・ふるさと知の紀行 丹波のミナミトミヨ

1915 年氷上郡 (現丹波市) 氷上町成松で、地元では「カツオ」と呼ばれていた、背中にトゲがある魚が発見されました。田中茂穂は、この魚を、同年 11 月の「動物学雑誌」で、「日本魚類の 10 新種」の 1 つとして、学名を「Pungitius kaibarae」、日本での名前を「国内で最も南にすむトミヨ」という意味で、「ミナミトミヨ」と名付け、発表しました。トミヨの仲間は、水温は 17 度以下でしか生息できず、主に日本海にそそぐ水系の上流にいます。ほかのトミヨが日本海側にいるのに、なぜか「ミナミトミヨ」だけは瀬戸内海にそそぐ加古川水系にいたのです。

「ミナミトミヨ」が現存すれば、コウノトリ、オオサンショウウオと並ぶ特別天然記念物級の希少種だったと考えられますが、兵庫県内では 1930 年代に、続いて 1960 年代に京都でも完全に姿を消し、日本産魚類の種レベルの「絶滅種第 1 号」となりました。

ミナミトミヨの標本は「青垣いきものふれあいの里」に展示されています。

氷上回廊水分れ フィールドミュージアム

氷上回廊水分れフィールド ミュージアム春季企画展 「丹波のむかしばなし展」



丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアムは、年 3 - 4 回の頻度で自然や文化・歴史に関する企画展・特別展を実施しています。

令和 6 年度の春は、中央図書館との合同企画展として、「丹波のむかしばなし展」を開催しました。地域に伝わる昔話は、その土地の風習や考え方を知ることのできる大切な宝物です。この企画展では、公益財団法人兵庫丹波の森協会がまとめた「丹波のむかしばなし」の中から、丹波市のお話を選んで、標本や歴史資料とともに展示しました。関連イベントでは丹波市の語り部グループの方にかみしばいも読んでいただきました。

「丹波のむかしばなし」を通して、より一層丹波市のことを好きになってもらえたら嬉しく思います。展示を見逃してしまった方は、ぜひ、図書館で「丹波のむかしばなし」を探してみてください。

うえのきねん
植野記念
びじゅつかん
美術館

かいかん
開館 30 周年を迎えた
植野記念美術館



丹波市立植野記念美術館は、前身の氷上町立植野記念美術館として平成6年11月3日に開館してから30周年を迎えました。30年間の美術館運営の中で、地域ゆかりの美術作品の調査や収集・保存にも取り組んできました。令和6年度には著名作家の巡回展に加えて、地域ゆかりの作家の展覧会を開催しました。また、令和7年度の「はしもとみお展」（令和7年10月18日～12月7日開催予定）に向けて、はしもとさんに丹波竜をテーマにした作品の制作を依頼中です。どのような作品、展示会になるか楽しみです。

しぎょうほうこく
展覧会事業報告

令和6年4月20日～5月19日	「市松人形作家 土田早苗展」 入館者数1,504人
令和6年6月8日～7月15日	「丹波市制20周年・作品受贈記念 郷土の日本画家 中尾英武展」 入館者数985人
令和6年7月27日～9月29日	「開館30周年記念 手塚治虫展」 入館者数5,421人
令和6年10月12日～12月22日	「開館30周年記念 シャガール展」
令和7年1月18日～3月16日	「丹波市制20周年記念・作品受贈記念展 郷土の文人画家・安田家三代の系譜」

ちゅうおう と しょかん
中央図書館

夏休み
としょかんいん
一日図書館員に
チャレンジ!!



丹波市立図書館では、図書館の仕事を体験することで、図書館への親しみと理解を深めてもらうため、毎年、「夏休み一日図書館員」というイベントを実施しています。今年度は、小学4～6年生の合計12名が市内6つの図書館に分かれて体験しました。内容は、本の貸出や返却を行うカウンター業務、新しく入った本を書架へ並べる作業、本に透明フィルムやバーコードを貼る作業などです。最初は緊張していた子どもたちでしたが、慣れてくると楽しみながら積極的に取り組んでいました。

☆参加者の感想の一部を紹介します☆

- ・本の貸出、返却の順序を覚えるのが意外と難しかった。
- ・貸したり、返したりするときに「ありがとう」や「ごろうさん」とお客様が言ってくれて楽しかった。
- ・図書館では思った以上に、たくさんの仕事をしていて、すごいと思った。



「わっと!みゅーじあむ」には、「ミュージアムって何だろう? (What's Museum?)」と興味を持ってもらいたいという願い、「わっ!」と驚くような体験と楽しさ、そしてミュージアムから広がる学びの「輪」という意味が込められています。

